

風水害対策

「風水害」とは、強風、大雨、洪水などによる自然災害のことです。これらは、毎年のように全国各地に大きな被害をもたらしています。このような自然災害から身を守るためには、さまざまな自然現象について正しい知識を持ち、自分自身への身近な危険として認識し、災害時にとるべき行動を平時から身につけておくことが重要です。

特別警報

数十年に一度の大災害が起こると予想される場合に発表されます。危険な区域から避難できない方は、直ちに安全を確保しましょう。

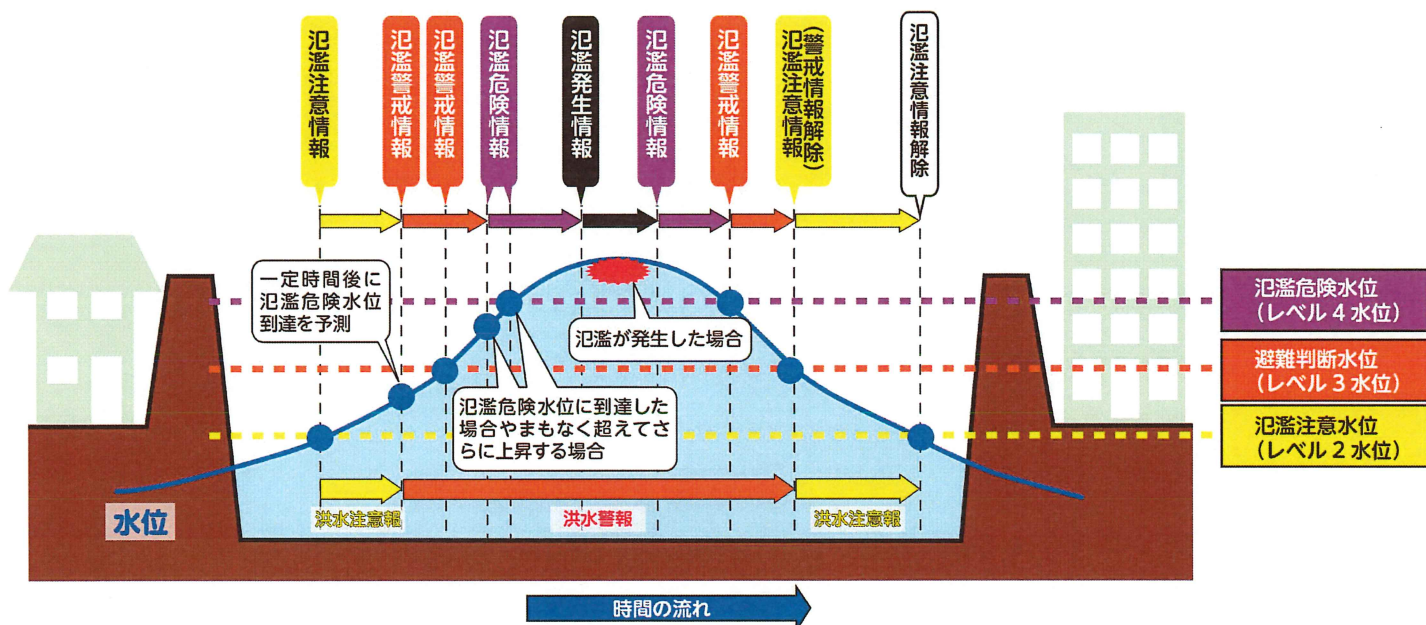
警報

重大な災害のおそれがあるときに発表されます。

注意報

災害のおそれがあるときに発表されます。防災ハザードマップなどで避難行動を確認しましょう。

河川氾濫情報



避難のポイント 危険な場所

川や用水路に近づかない

降雨が続く不安に思っても、川や用水路、田畑の用水は見に行かず、やむを得ない場合は複数人で行動しましょう。避難の途中も増水した川の近くを通るのは避けましょう。

地下室、地下街は危険

地下にいる場合、地上の様子が把握しづらく、避難経路が限定されます。また、地上が冠水すると一気に水が流れこんでくる場合もあり、脱出が困難となります。

やむなく浸水の中を歩く際は

裸足、長靴は厳禁。水中で脱げづらい紐靴などが適しています。また、氾濫水はにごっているため、水面下が確認できません。長い棒などを杖代わりにし、側溝やマンホール、障害物に注意しましょう。

浸水が始まる前

氾濫水は勢いが強く、大人の膝程度の深さで歩行が困難となります。浸水してから自宅外への避難は危険です。危険を感じたら自主的に避難を開始しましょう。

状況に応じた避難

周囲の状況が危険で避難所まで移動できない場合は、自宅や近隣の頑丈な建物でできるだけ高い階に避難しましょう。移動途中で、危険を感じたら近隣の建物へ行きましょう。

風水害対策

雨の強さと降り方

やや強い雨 ザーザーと降る	強い雨 どしゃ降り	激しい雨 バケツをひっくり返したように降る	非常に激しい雨 滝のようにゴーゴーと降り続く	猛烈な雨 息苦しくなるような圧迫感があり恐怖を感じる
地面からの跳ね返りで足元がぬれる。 	傘をさしていてもぬれる。ワイパーを速くしても見づらい。 	道路が川のようになる。高速走行時、車輪と路面の間に水膜が生じブレーキが効かなくなる。 	寝ている人の半数くらいが雨に気がつく。水しぶきであたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなる。 	傘は全く役に立たなくなる。車の運転は危険。
10mm以上～20mm未満	20mm以上～30mm未満	30mm以上～50mm未満	50mm以上～80mm未満	80mm以上～

風の強さと吹き方

やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
風に向かって歩みにくくなる。傘がさせない。樹木全体や電線が揺れ始める。 	風に向かって歩けない。転倒する人も出る。雨戸やシャッターが揺れる。 	何かにつかまっていけないと立ってられない。飛来物によって負傷するおそれがある。 	屋外での行動はきわめて危険。走行中のトラックが横転する。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック塀で倒壊するものがある。
平均風速 10m/s以上～15m/s未満	平均風速 15m/s以上～20m/s未満	平均風速 20m/s以上～30m/s未満	平均風速 30m/s以上

台風について

熱帯の海上で発生する低気圧を「熱帯低気圧」と呼びますが、このうち北西太平洋または南シナ海に存在し、なおかつ低気圧域内の最大風速(10分間平均)がおおよそ17m/s(34ノット、風力8)以上のものを「台風」と呼びます。

台風の大きさと強さ

台風のおおよその勢力を示す目安として、風速(10分間平均)を基に台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を暴風域と呼びます。

大きさの階級分け

大きさ	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

強さの階級分け

強さ	最大風速
強い	33m/s以上44m/s未満
非常に強い	44m/s以上54m/s未満
猛烈な	54m/s以上

台風への備え

家屋周辺

- 商店などでは看板のぐらつきに注意
- 庭の鉢植えに注意。室内に入れておく
- 家の周りを一周し、飛ばされそうなものはすべて室内に取り込むか固定するなどの飛散防止をする

屋根

- 瓦のひび、われ、ずれ、はがれはないか
- トタンはめくれやはがれがないか

雨どい

- 雨どいに落ち葉や砂などが詰まっていないか。つぎめのはずれや塗料のはがれ、腐りはないか

テレビアンテナ

- 錆びたりゆるんだりしていないか。不安定なアンテナは固定する

ベランダ

- 鉢植えや物干し竿など飛散の危険が高いものは室内へ

プロパンガス

- 固定されているか

ブロック塀・板壁

- ブロック塀にひびわれや破損箇所はないか
- 板壁にぐらつきや腐りはないか

窓ガラス

- ひびわれ、窓枠のガタツキはないか。また強風による飛来物などに備えて、窓に飛散防止フィルムを貼る。外側から板でふさぐなどの処置をする